

# 桐生市奥沢地区における

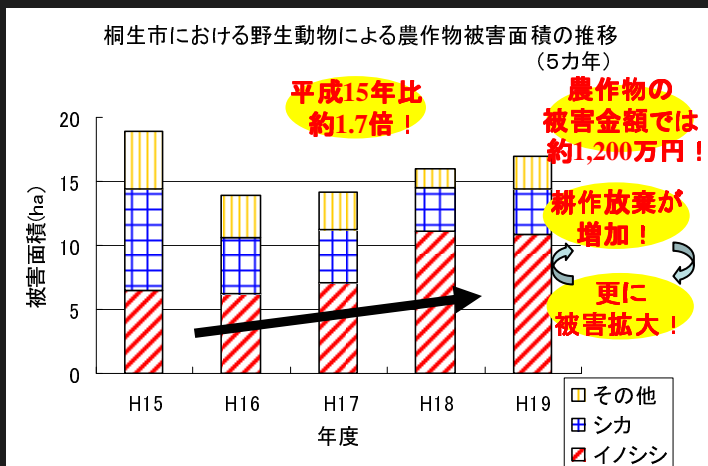


# 集落ぐるみでの獣害対策について

桐生地区農業指導センター 生産指導係 末次涼子

## 1. 取組の背景

- 中山間地域におけるイノシシ等の野生動物による農作物被害は年々深刻化しており、農業生産の減少や耕作放棄地の拡大、強いては地域の活力減退に繋がる大きな問題となっています。
- 桐生市・みどり市では、近年特にイノシシの被害、捕獲頭数が増加しており、今後も更に生息域が拡大することが懸念されています。
- 被害対策を効果的に行うためには、集落等地区の住民全体が被害対策を共通問題として捉え、面として集落ぐるみで取組を行う事が必要不可欠となります。



イノシシ被害や耕作放棄地が急増しており、地域全体で積極的な取組が見込まれる地域として、桐生市新里町奥沢地区を重点モデル地区として位置づけ、平成21~23年度にかけて鳥獣害・耕作放棄地対策の支援を行っています。当地域では、リーダーを中心に、地元からの積極的な活動が展開されています。

## 2. 集落ぐるみの獣害対策とは

### 従来の獣害対策

- 獣害対策は行政や猟友会主体で行うものという考え。
- ハード事業の導入(柵の設置)や捕獲のみに頼る。

- 一時的に被害軽減できても、再び被害が発生しやすい。
- その場限りの対策になりがち。
- 管理されない柵はかえって被害を招く恐れもある。
- 生産者の一部の努力では、獣害被害は軽減できない。

### 住民参加型の獣害対策

ココが違う!

- 住民主体で関係機関と連携を取りながら実施。
- 情報共有や地域合意を取りながら環境整備や追い払い、柵の設置、捕獲など多様な対応を地域が主体となって行う。

結果として..

- 地域全体が共通意識を持つことで、点的な被害防止対策から面的な被害防止対策が可能。
- 地域で継続した対策の実行が可能に。
- しかし! 地域の理解と協力が必要。

### 3. モデル地区 奥沢における取り組みの経過



3月 現地研修会



4月～ 随時 役員会



6月 イノシシ学習会



7～11月 忍び返し付き防止柵  
(ワイヤメッシュトタン)の実証



8～9月 集落環境調査 ↑→



9月 ワークショップ形式  
による対策検討 ↓→



9月 防止柵の検討



イノシシ(子)



農作物被害の様子

- 桐生市新里町奥沢地区では、農地・水・環境保全向上活動支援事業に係る地域の活動組織「奥沢地域クラブ21」を中心として、地区自治会(83戸)、市、県関係機関等で連携を図りながら、イノシシ対策について役員会、研修会等を随時開催し、猟友会や日本獣医生命科学大学の協力も得ながら集落環境調査、ワークショップ形式による対策の検討などを実施してきました。
- 獣害対策に対する地域の関心は高く、取り組みを通して、住民間の積極的な参加呼びかけや狩猟者免許取得者の育成が行われ、地域ぐるみで力を合わせた対策を実施しています。
- 集落環境調査の結果から推定されるイノシシの動向、侵入経路に対し、地域で防除対策を検討し、対策の一環として、平成22年1月からイノシシ防止柵(全長約4km)の設置を住民自らの手で行っています。

### 4. 被害ゼロを目指して ～今後の取り組み・課題～

#### ①一人一人が 餌付けになるようなことをしない!!

- 収穫しない野菜や果樹、生ゴミは放置しない!
- お墓のお供えはお参りが済んだら持ち帰り
- 稲刈り後の水田はなるべく早く耕し  
落ち穂・ヒコバエを出さない

#### ②集落全体で イノシシを農地・集落に近づけない!!

- みんなで勉強! イノシシ(敵)を知る!
- 隠れ場所になる放棄地や竹林は無くす!
- 下草刈りや雑草管理を徹底し、見通しを良くする!
- 防止柵は地上から1.2m以上の高さで十分な強度が必要!
- 防止柵はなるべくまとめて設置する
- 防止柵を過信せず、設置後も下草刈りなど  
管理を怠らない

#### ③人間は怖いものと教える!!

- 見たら直ちに音出しなどで追い払う
- 林縁部やけもの道などは集団見回りを行い  
警戒心を持たせる

鳥獣害被害の軽減と耕作放棄地の有効活用による地域の活性化を図るため、今後も、集落の1人1人の協力と理解を得ながら、上記の事項を集落ぐるみで実施・推進することが課題となります。



OKUZAWA